

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5      ・通信教育部カレンダー→p. 15～17
- ・演習・実習科目関連締切等
- 社福→p. 23～25      精保→p. 26～27

## 【再掲】2023年7月以降の変更・留意点

### ●レポート受付締切日の変更

『試験・スクーリング情報ブック2023』 p. 15～17より変更いたします  
(詳細は164号 p. 38参照)。

(例) 1月のレポート受付締切日

変更前：1月11日(木)・25日(木)→変更後：1月15日(月)・29日(月)

### ●(再掲)2023年度からの変更・留意点

『試験・スクーリング情報ブック2023』 p. 18～21をご確認ください。

---

## 「令和6年能登半島地震」による被害を受けられた方へ

---

このたびの地震におきまして、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災された方々が1日も早く通常の生活に戻れますことを、心より祈念いたしております。

通信教育部の教材・副教材に損傷を受けた方は、無料で再交付いたしますので、お申し出ください。その他、被災された方で配慮を希望する方は通信教育部までご相談ください。

## 新型コロナウイルスの5類移行に伴う対応について

5/8より新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことを受け、通信教育部での各種対応は下記のとおりといたします（感染状況によって変更となる可能性があります）。

### ◆スクーリング受講について

『試験・スクーリング情報ブック2023』p. 48の【新型コロナウイルス感染防止における受講上の留意事項】（2023年2月時点）は撤廃いたしますが、下記につきましては引き続きご協力をお願いいたします。

1. 発熱など体調不良がある場合は、受講をお控え願います。
2. 入室はスクーリング開始20分前を目安にお願いします。
3. マスク着用は各自のご判断にてお願いします。授業の内容によってはマスク着用にご協力いただく場合があります。
4. せっけんでの手洗い等、各自での感染対策は引き続きお願いいたします。

### ◆提出物について、引き続きのお願い

レポート、各種申込書は、郵送での提出をお願いいたします。

### ◆学食について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 月曜日を除きランチ、ティータイムの営業をしています。  
※学生証の提示で、日替わりランチ200円引きなど割引があります。
- 2) スクーリング開講日に、日替わり弁当の予約を受け付けています。  
※550円（税込）、味噌汁付き。前日15時までにWeb予約（p. 43参照）。  
※スクーリング欠席時は予約キャンセルをお願いいたします。

#### ◆対面での学習相談について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 「学習相談申込書」を希望日の1週間前までにご提出ください（日時を調整のうえご連絡いたします）。
  - ・**メールで提出**：通信教育部ホームページよりダウンロードし、入力のうち添付ファイルにて送信（宛先 uc@tfu.ac.jp）。
  - ・**郵送で提出**：本冊子巻末の用紙に記入のうえ、返信用封筒（定形封筒 84円切手貼付・返送先明記）を同封して発送（封筒に「学習相談申込書 在中」と朱書きしてください）。
- 2) ご予約いただけるのは平日（水曜日を除く）で、下記①～⑤の時間帯に1日1回、30分以内となります。
  - ①10：00～10：30、②11：00～11：30、③14：00～14：30、④15：00～15：30、⑤16：00～16：30
- 3) 当日は学生証をご提示いただきます。
- 4) 体調不良の際は、キャンセルのうえ改めてお申し込みください。
- 5) 学習相談は講義に準ずるため、録画・録音はご遠慮いただきます。

#### ◆自習室について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 使用可能日：年末年始など事務室休業日を除く。
- 2) 使用時間：9～17時
- 3) 使用希望の方は、通信教育部事務室（仙台駅東口キャンパス3階）にお越しください。
- 4) 当日は学生証をご提示いただきます。
- 5) 発熱ほか体調不良の方は、入構をご遠慮ください。
- 6) 室内での食事はご遠慮ください。
- 7) 室内の書籍等は閲覧可能ですが、貸し出しはしておりません。

---

# なぜ人は学ぶのか

---

教員 MESSAGE

教授 渡部 純夫

---

## なぜ人は学ぶのか

---

心理学者のカール・ロジャーズ (Carl Ransom Rogers) は、あらゆる人間に備わっているとされる有機体としての自己実現力を、本能レベルで捉えている。つまり、誰しもが自己実現を求め力を生まれながらに身に着けていると考えたのである。そして、ロジャーズによれば自己受容のプロセスを通して、人は絶えず自己の変化と成長を行っていることが出来る。

かたや、ユング (Carl Gustav Jung) は、それを個性化 (individuation) と呼んでいる。「個性化」とは、その人間が「本来なるであろうと考えている究極の自分になっていくことを意味している。

そして、マズロー (Abraham Harold Maslow) は欲求5段階説の中で、人間は最終的に自己実現をめざして行くと理論づけたのである。

多くの心理学者たちが、こそって自己実現こそ究極の生きる意味として捉えていることに改めて興味と驚きを感じる。

では、自己実現を行っていくための方法とはどんなものなのであろうか。それを見極めようとするれば、まずは先人達の考えを知らなければならぬであろう。ロジャーズにしる、ユングにしる、マズローにしる、人間理解の考え方に違いがあるにもかかわらず、求めるものの先にあるものが同じということは、究めれば誰もが同じゴールにたどり着くことになると考えて間違いないのであろう。その道のりは長くてもあきらめず歩き続けることこそが究極の自己実現に近づくための近道かもしれない。

## 学ぶことこそが自己実現への道

---

人は、自己実現の謎を探るべく学問をしているかと言えば、そうではないだろう。知りたいという欲求を持ち、疑問に立ち向かい、なおも奥へ奥へと突き進んでいくプロセスを通して、いつの間にか自己形成の階段を上っている事に、ふとした時に気づくものである。

階段で言えば踊り場までたどり着いたときに、一息つきながら自分の後ろに道が付けられてきた事を確認することになるのであろう。山登りなども同様のことが言えるかもしれない。頂上に着いたと思って、登ってきた登山道を振り返れば、そこには今までに見た事もない風景が広がっていると思われる。それは、簡単には手に入れることのできない、自分の力で勝ち取った貴重なものである。しかし、頂上だと思って先を眺めれば、尾根沿いの道はるか遠くまで続いている事に気づき、愕然とするかもしれない。それでも、先にある頂を求めてまた歩き出すことになる。いつ到達するのか分からない不安と、先には必ずや求める頂上があるものと信じて、歩を進めていくことになるのである。それこそが、学びの中で感じる事が出来る自己実現の道と呼んでいいのかもしれない。

## 君はどう学ぶのか

---

先ごろ話題を集めた映画に、宮崎駿監督の「君たちはどう生きるか」がある。この映画は、主人公の少年真人が母親の死を受け入れ、父親の再婚相手であり真人の母親の妹でもある夏子との3人の生活を通して経験する現実ともいえるし、ファンタジーともいえる世界の中で、大人への成長を遂げていく物語である。まさしく、主人公なりの自己成長のプロセスがそこから見えてくるのである。夏子のおなかには父親との子どもがやどっており、母親とのモーニングワークの途上にいる主人公にとっては、身を割

かれるような思いであろう。大人に対する怒りと不信の中で、真実の愛がどんなものであるかに徐々に気づきを覚えることにより、主人公は父親も夏子も母親も受け入れることが可能になるのである。また、転校先の学校では、友人関係に悩み嘘をついたり、自分を傷つけたりしながら孤立していくことになる。さらに、絶対に見てはいけない禁を破って夏子の産屋を覗くことにより、深いショックを心に刻むことになる。それらのものを徐々に乗り越えながら大人へと成長を遂げていき、人間形成が行われていくのである。

学問をするということは、主人公の生き方のように、決して楽しいことだけではなく、むしろ悩み苦しまなければならないことに出くわすことが多々ある。二面性の世界を見つめ、葛藤を経ながらの統合のプロセスが人間形成だと思われるのである。「君はどう学ぶのか」が一人一人問われていることになる。その延長に「君はどう生きるのか」という生き方の課題と出くわすことになるのである。

## 学びの道とは

---

中国の思想家で老子という人がいる。「老子道徳経」の中で、老子は道（タオ）を説いている。これこそが理想的な「道」だといっている人に示すことのできるような「道」は、真実の「道」ではなく、これこそが確かな「名」だといって言い表すことのできるような「名」は、真実の「名」ではない。「老子」の言う「道」とは、単なる人間世界の約束事ではなく、宇宙自然をも併せ貫く唯一絶対の根源的「道」を言っているのである。私たちが探求し続ける学問の道は、「老子」のいうところの「道」と重なり合うものなのではないだろうか。

皆さんには、ぜひともこの学問における「道」を探し続ける努力を惜しまず励んでいただきたいと切に思うのである。

